

らいおう
宇治交配 **ミニ頼黄 50**

病気や生理障害に強く、品質良好な黄芯系ミニ白菜！

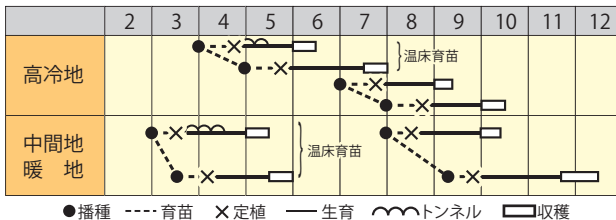
特性

- ① 外葉は濃緑で、球内色は鮮やかで美しい黄色、50～55日程度で収穫できる極早生種です。
- ② 根こぶ病、ウイルス病、軟腐病等に強く、生理障害の発生も少なく栽培容易です。
- ③ 外葉はコンパクトで極立性となり、密植栽培でも玉ぞろいが良好です。
- ④ 球頭はやや浅く被り、尻張り良く、1球1.0～1.5kg程度の手頃な大きさの円筒形に仕上がります。
- ⑤ 葉質はサクツとして風味があり、食味が良好です。



栽培のポイント！

下記標準栽培表参考に貴地の気候に合わせて栽培してください。



①土づくり

結球白菜は、急速な発育をするため水分を必要とします。しかし過湿には弱く発育が悪くなります。したがって根が十分張れるような、深くて膨軟な土層が必要です。

土壌の物理性を改良するうえで堆厩肥等の有機質の施用はとても効果があります。

耕起はプラウを用い、ロータリーで碎土します。排水の悪いところや、土層が浅くて根の分布が悪いところでは高畝とします。

②施肥

10a当たりの施肥量は、土壌条件や前作によって異なりますが、一般的にはチッソ16～20kg、リン酸10～12kg、カリ18～21kgを基準とし、全層施肥とします。チッソ及びカリは、全量の2/3～3/4を元肥とし、残りを追肥とします。芯葉が立ち上がる前に、1回目の追肥を中耕を兼ねて施し、初期生育の促進を図ります。2回目は、結球初期の外葉がたってきた頃を目安に、畝間に施します。

③播種・間引き

直播の場合は、1カ所5～7粒の点播とし、覆土は5mm程度の厚さを目安とします。播種に先立ち、播き穴の表面を平らにならし、1カ所にかたまらないように種子を落とします。極端な早播きは、高温・乾燥による生育障害や病害虫の多発により、目標とする収穫が期待できない場合がありますので、適期の播種を心がけてください。間引きは、本葉3枚くらいの時期に2～3本を残し、本葉5～6枚展葉期を目安に1本立ちとします。

次ページ



MARUTANE
Quality Seeds

栽培のポイント

④育苗・定植

1ブロック当たりの播種量は2〜3粒とし、軽く覆土します。播種後2〜3日は乾燥させないようにして一斉発芽を図ります。発芽後も毎日灌水して生育の促進に努めます。

育苗期間は20〜25日とし、本葉4〜5枚が定植適期です。これ以上の老化苗は生育不良の原因となりますので、注意が必要です。苗は所定の栽植距離にあけられた穴に入れ、周囲の土を株元に寄せて軽く押さえてやりします。圃場が極度に乾燥している場合には、定植後株元に灌水してやりします。

春まき栽培の場合は、温床線とともにトンネル、カーテン等保温資材を利用し、15〜25℃を目標に育苗管理します。育苗期間は30〜35日で、本葉4〜6枚が定植適期です。

栽植距離は、畝幅60〜70cm、株間23〜25cmを目安とします。

定植後はビニールトンネルで被覆し、トンネル内の気温は昼間35℃以上にならないよう管理します。生育が進むにつれてトンネルのすそを広く開け、3月下旬ころから暖かい日には、ビニールを全開して徐々に取り除いていきます。

⑤病害虫防除

白菜は、初期生育が極めて旺盛で、この時期に十分に根が深く広く張れるようにしてやる必要があります。生理障害の発生を防止するためには、極端な乾燥や過湿をさけ、圃場の適湿を保つように心がけることが大切です。また、極端な多肥栽培も生理障害の原因となりますので注意してください。

白菜を加害する害虫の種類は多く、病害の原因ともなりますので、発生を認めたなら、害虫の齢が進まないうちに速やかに駆除することが大切です。

べと病、白斑病、黒斑病、軟腐病などに対しては、結

球期に予防的に薬剤散布を行えばより効果的です。また、根こぶ病に対しては、根こぶ着生の可能性もありますので、栽培地によっては通常の防除が必要となります。

⑥収穫

収穫は、結球状態に応じて行います。熟度は、結球した白菜の頭を軽く押さえ、しまり具合を確かめて判断します。結球が進んでいけば、過熟にならない適期に収穫するようにします。

